



マッキンダーの地政学 ―デモクラシーの理想と現実―

ハルフォード・ジョン・マッキンダー著 曾村保信訳
原書房 2008

経済学部教授 鈴木 章俊

マッキンダーはイギリスの地政学者で、本書は地政学の古典といわれる書である。マッキンダーは世界を3つの地域に分ける。海も洋も持たない内陸地域、これをハートランド(北ハートランド)という。次に、海を持つが洋を持たない海岸地域、これをコーストランドという。最後に、洋を持つ海洋地域、これをアイランドという。ハートランドには、遊牧騎馬民族が居住し、富を求めて、周辺のコーストランド農耕民やアイランド商業民への侵略、征服を太古の昔から繰り返してきた。ハートランドは現代の共産主義陣営に相当し、アイランドは自由主義陣営に相当するのだから、東西問題とは、不変の歴史過程の現代版にすぎない。以上はユーラシア大陸の話である。

マッキンダーの地政学を理解するカギはアメリカ大陸とアフリカ大陸の扱い方にある。マッキンダーはアメリカ大陸を南米島と北米島の2つの大きな島と考えるべきだという。洋に面する陸塊は大きさに関係

なく島である。オーストラリアも例外でない。では、アフリカ大陸も大きな島ではないか。アフリカはインド洋と大西洋に面している。結論は、アフリカは第二のハートランドである。なぜなら、アフリカ大陸は全体が海に浮かぶ台地であり、河川は最後に滝となって洋にそそぐ。船は洋から内部へ遡れない。したがって、アフリカは海も洋も持たないに等しい。だから、そこはハートランドである。

南ハートランドのアフリカ遊牧騎馬民族も、富を求めて、北側の周辺地域に侵略、征服を繰り返してきた。イスラムのスペイン征服とヨーロッパの再征服をみよ。この対立も太古から繰り返されてきた。アフリカは南側陣営に相当し、ヨーロッパは北側陣営に相当するのだから、南北問題も、不変の歴史過程の現代版にすぎない。かりに北と南のハートランドが中東で一つに繋がったら、ヨーロッパ、インド、日本、東南アジアの生存は危機的となるであろう。